

TUMSAT-OACIS Repository - Tokyo

University of Marine Science and Technology

(東京海洋大学)

第一部 海鷹丸航海調査報告 平成16年度(2004年度)
第15次航海報告

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2008-04-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://oacis.repo.nii.ac.jp/records/277

4.6 調査報告 (Survey Report)

4.6.1 寄港地事情 (Report of port's guidance)

小池義夫、林 敏史、浜田浩明、川田悠子、喜多澤 彰、大鳥居治平
東京海洋大学海洋科学部練習船 (〒108-8477 東京都港区港南 4-5-7)

Yoshio KOIKE, Toshifumi HAYASHI, Hiroaki HAMADA, Yuko KAWATA, Akira KITAZAWA and
Jihei OOTORII

Department of Training ship Faculty of Marine Science, Tokyo University of Marine Science and
Technology (4-5-7 Konan, Minato-ku, Tokyo 108-8477, Japan)

4.6.1.1 Bena 入港報告 (Report of Port Bena Bali INDONESIA)

はじめに

東京海洋大学練習船海鷹丸は、第 15 次航海 (水産専攻科遠洋航海) において、清水及び生鮮食料品補給のために、Bena 港に入港したので、以下に港湾状況を報告する。

1. 入港国:INDONESIA、 2. 位置 : Latitude 08° 44' S, Longitude 115° 12' E.
3. 使用海図 : 海図 No.946, Ports in Eastern Jawa,Bali and Lombok, 1/10,000, British Admiralty , 2003
4. 入港期間 : 2003 年 12 月 26 日～30 日 日出 : 05:47、日没 : 18:22、使用時間 : UTC+8h s、
潮汐変化量 : 234cm
5. 入港

東京海洋大学練習船海鷹丸は 2004 年 11 月 17 日の東京出港後初となる寄港地である Indonesia バリ島 Bena 港に 2004 年 11 月 26 日 SMT:10 時 (UTC+8) に入港した。以下に入港業務の詳細を記す。

2004 年 11 月 26 日航程

- 8 時 15 分 Eng.full ahead as log showed 3288.6 8 時 55 分 S/B Eng. & all hands on deck.
8 時 57 分 Used Eng. & steering Var'ly. 9 時 13 分 Pilot Mr. Mahmud R.U./7 on board.
9 時 36 分 Stopped Eng. as log showed 3300.5.
9 時 42 分 Jock tug "KT SABALI 1" on portt quarter at (08°44.9469'S,115°12,9652'E
9 時 58 分 Sent out first shoreline to Bena passenger terminal as log showed 3301.2.
10 時 3 分 Let go the tug line. 10 時 10 分 F.W.E.
10 時 13 分 Made her starb'd side to Bena passenger terminal. 10 時 17 分 Pilot heft her.

(1) 無線業務

代理店は PT.PELAYARAN NASIONAL INDONESIA (PELENI BENOA) TEL62-361-765758(763963) FAX62-361-763964 入港前 1 週間前に入港情報 (ETA, 補油, 無線検疫要領) および食料品手配をインマル経由 FAX 通報したが返答なし。3 日前に ETA 変更・PILOT 要求・給油業者についても連絡がなく直接 DENPASAR の代理店 (ジャカルタ経由のため) に連絡確認した。2 日前に調査員の入国手続きと本船移送の要請しフライトスケジュールと調査員リストを通報した。

入国時代理店と検疫官、入官、税関、港湾管理者計 8 名が来船し、船員手帳とパスポート (学生のみ) に入国 VISA スタンプを押印した (SHOREPASS の発給は無かった)。出港時は入管のクリアランスを代理店が港長へ提出し港長のクリアランスが発給され出港となる。無線検疫の通報要領の問い合わせには昨年同様応答無く、Q 旗掲揚し検疫官 2 名により検疫業務終了後、降下の支持があった。また Vaccination List の提出求められたが国際法に照らし合わせ断った。港務通信は水先人手配を 6 時間前までの代理店を通じての要請以外、通常の通信であった。ISPS は現在 CODE に対応していないとのことであった。

パイロット・タグ

パイロットは強制で、パイロットは 9 時 13 分、Pilot boat (タグボート) (Photo. 1) から本船左舷側より乗船した。Pilot boat はそのままタグボートとして 9 時 42 分左舷船尾にタグラインをとり、本船は後進にて着岸後離船した。なお、パイロットステーション (Photo. 2) は岸壁の南端にあった。連絡は VHF CH. 12 で行なった。



Photo. 1 Tug



Photo. 2 Pilot Station



Photo. 3 Flag (インドネシアでの入港信号)

(2) 航路・着岸方法

本船は Bena 入港時、入港の意思表示である第一代表旗・R 旗 (Photo. 3) の連旗を掲揚し、推薦航路上を航行、パイロット乗船後、指示に従い、タグボートを左舷船尾にとり、後進にて

着岸した。なお、航路標識(緑ブイ(Photo.4)・赤ブイ(Photo.5))が航路両舷に設置されているがこの構造はそれぞれ異なり、一見見落としがちなので注意が必要である。また、航路北側には湿地が広がっており、普段は見えないが干潮時には露出する(Photo.6)ので、注意が必要である。船舶は観光船や延縄漁船が多く、交通量も多い。

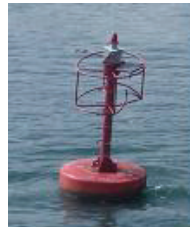


Photo. 4 Green Buoy

Photo. 5 Red Buoy

Photo. 6 Ashore (上:満潮時、下:干潮時)

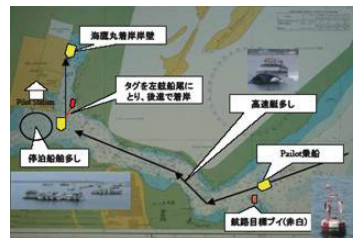


Photo. 6-2 入港要領と航跡

(4) 出入港時の事務手続き及び確認事項

①主に入港時関係 Relevant papers of entry

1. 前出港証明書 Last port clearance、2. 乗組員名簿 Crew list (Free&Special)
 3. 旅客名簿 Passenger List、4. 乗組員携帯品申告書 Crew Effects declaration
 5. 旅客携帯品申告書 Passenger Effects declaration、
 6. 船用品申告書 Ship's Store declaration、7. 一般申告書 General declaration
 8. シールストア申告書 Seal store declaration、9. 積荷申告書 Cargo declaration
 10. 明告書 Maritime declaration of Health、11. 予防接種 Vaccination list
 12. 航海メモ Voyage list、13. 上陸許可書 Crew Landing Permit
 14. 接待品申告書 Master's care declaration、15. Nil List、16. その他 Other
- Embarking list, Disembarking list, Foreign Currency list

②貸与及び提示書類関係 Relevant Papers of Loan and Show

1. International Load Line Certificate、2. Cargo Ship Safety Radio Certificate
3. Cargo Ship Safety Construction Certificate、
4. Cargo Ship Safety Equipment Certificate Etc.

③出港時の書類関係 Relevant Papers of Departure

1. 貸与書類返却受領 Leave The Relevant Papers (Date of Return)、
2. 出港許可書 Clearance of Received
3. 上陸許可書返却 Crew Landing Permit of Return
4. 出港時提出書類 Leave time of Presentation Papers

出港時は入管で発給された書類を代理店が港長へ提出してクリアランスが発給され出港となった。

④代理店打ち合わせ事項 Confirming Matters (Agents)

1. 表敬訪問 Courtesy Visit、2. 塵芥処理 Garbage of Disposal
3. 清水積み込み Date and time of Take Fresh Water、4. 洗濯 Laundry
5. 燃料積み込み Take Oil on board、6. 支払関係 Port disbursement of Payment

その他

入港時上記の官憲が来船。代理店に上記の入港書類を渡し各関係者に入港書類を代理店が配り、各関係者がそれぞれ書類をチェックした後、質問を受けた。検疫官には、予防接種報告書 (Vaccination List) の提出を求められた。検疫官に対し、予防接種報告書が無い旨を説明し、了解を取り付けた。入国管理官に対し、学生は実習証明書、乗組員は船員手帳の各番号を記載した Crew List を提出したが、学生の実習証明書に入国証明印が押印できないので、学生はパスポートを提出し押印を受けた。また出港時にも全員出国印が押印された。



Photo. 6-3 入国手続きの様子 Photo. 6-4 居住区の税関検査

税関は書類のチェック後、ボンドストアー、各ストアーをチェック。その後、クルーの居室（事

務長及び一等航海士の居室のみ) をチェックした。内容はベッドの下、引き出しの中等を調べられた。特にポルノ、麻薬などのチェックで、酒、タバコについては問題にしていなかった。

PSC 及び ISPS CODE について

Benoa 港では PSC は実施されなかった。またベラ港では現在 ISPS CODE に対応していない

9. 岸壁施設

岸壁および係留設備

本船が着岸した岸壁はコンクリート（奥行き 20m）であり、車の海中転落防止用の木柱があった。着岸の際には岸壁のフェンダーに本船のフェンダーを入れた。岸壁のフェンダー間隔は 8m で、高さは 1m48cm であった。（Photo.7）ビット間隔は 21m20cm で、ビットサイズは高さ 73cm・太さは 96cm。（Photo.8）



Photo.7 フェンダー

Photo.8 ビット

Photo.9 フェンス

岸壁にはフェンスが設置されていたが、可動式で高さも 1m40cm であり、セキュリティの意味では不十分なものだった。（Photo.9）

給油設備（Photo.10）

Barge（船名 PUTRA SENTOSA：保有タンク数 4・フローメーター有り）にて行った。Barge にはエンジンがなかったため、曳き船（RIAMMAS XI）で本船に到着した。



Photo.10 Barge&Tug

Photo.11 給油ホース接続部コネクター

Photo.12 給水栓

積み込み日は 2004. 11. 26・積み込み時間 11:48～12:55 (所要時間 67 分) 積み込み量は 40MT・タンク内温度 29 度・測定密度は 0.84 であり粘性の高い重油であった。積み込み燃料は日本の A 重油相当品で、2004. 11. 26 時点では 1 MT≒520 \$ (為替≒106 円) であった。いくつか用意してあった給油ホースの接続部が合わず、少々時間がかかった。(Photo. 11)

給水設備 (Photo. 12)

本船は給水を行わなかったが、給水設備の給水栓は確認できた。給水栓には油のようなものが浮いており、衛生面が心配である。

食料積み込み

食料の積み込みはほぼ時間通りに行われたが、一度にすべての食料が届かず、いくつかの食材が遅れて届けられた。本船はトマト・キャベツ・キュウリなどの野菜を積み込んだ。